

## 6 本時案

### ① 主眼

フリーでゴール下の空間にボールを運ぶ方法を追究する場面で、パスの受け手の体の向きや出し手のパスを出す場所に着目し、エリア侵入ゲームをすることを通して、受け手はゴール下の空間へゴールに体の正面を向けて走り込むこと、出し手はゴール下の空間にパスを出すことができる。

### ② 本時の評価規準

受け手はゴール下の空間へゴールに体の正面を向けて走り込めており、出し手はゴール下の空間にパスを出している。

### ③ 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応(太字はキーワード)	◆学習内容◇教師の指導・援助	時間	備考
はじめ	1 前時の振り返りをし、学習問題を確認し、学習課題を設定する。	ア フリーでゴール下の空間にボールを運ばれてしまい、得点される場面が多くあった。	◆前時の振り返りを行い、メインゲームでの課題を発表し合い、学習問題を確認する。 ◇攻撃に視点を向けることで、ディフェンスにもいきてくることを共有する。	10分	バスケットボール、タイマー
		イ フリーでゴール下の空間にボールを運べば、ディフェンスが困り、得点が重ねられそうだ。			
	学習問題：フリーでゴール下の空間にボールを運ぶにはどうしたらいいだろう。				
	ウ パスを受ける人は、エリアの外からゴール下に走り込みながらパスを受けているので、体がゴールに向き、フリーでシュートが打っている。 エ パスを出す人は、人ではなく、ゴール下の空間にパスを出している。	◇前時の授業で行ったゲームの中で、ゴール下にフリーでボールを運んでいるよいプレイを動画で確認し、パスの受け手と出し手のよい点を考え、学習課題を設定する。			
なか	2 エリア侵入ゲームを行う。	学習課題：パスの受け手の体の向きや出し手のパスを出す場所に着目し、エリア侵入ゲームをしよう。		15分	得点板、ビブス、ホワイトボード
		オ ゴール下でパスを受けようと、エリアの辺りで待っていると、パスをもらった時点で、ゴールに背を向けた状態になってしまう。 カ 受け手は、マークのついていない人や、マークの後ろの死角にいる人が、エリアの外で待っていて、エリアに向かって走り込めば、フリーでパスを受け、シュートができそうだ。 キ 誰もいない空間にパスを出すようにすれば、空間に出すことになり、受け手も走り込んでパスを取れるので、自然と体の向きはゴールに向いている。	◆エリア侵入ゲームの行い方を理解し、前後半2分のゲームを2セット行う。 ◇ゴール下にボールを運ぶ際に、パスの受け手の体の向きはゴールに向いているか、また、パスの出し手は、人ではなく空間にパスを出しているかを、チームで見合うように促す。 ◇試合をしていないチームは、ホワイトボードを使って、チームの課題や作戦を考える場を設定する。		
か	3 メインゲームを行う。	ク エリアの外で待ち、ゴール下に走り込んだら、ゴールに体の正面を向けて、パスを受けることができ、シュートも入れることができた。	◆4on3のメインゲームを、前後半2分で2セット行う。 ◇エリア侵入ゲームで学んだ動きを試すよう声掛けする。	15分	
		ケ パスの受け手は体をゴールに向け空間に走り込むこと、パスの出し手は、空間にパスを出すことができるようになり、フリーでゴール下までボールを運べるようになった。 コ 攻めのパターンをチームで共有すれば、より効率的に得点できそうなので、次回は、空間を使った攻撃をチームで考え、実践したい。	◆エリア侵入ゲームで学んだことや疑問に思ったこと、また、それらをどのように4on3にいかせたかということに加え、個人やチームの課題をワークシートに記入する。 ◇新たに見つけた課題を取り上げ全体に共有し、次時への意欲付けをする。		
まとめ	4 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。			10分	ワークシート